

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】平成 29 年 10 月 5 日 (2017.10.5)

【公表番号】特表 2016-531228 (P2016-531228A)
 【公表日】平成 28 年 10 月 6 日 (2016.10.6)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-058
 【出願番号】特願 2016-515375 (P2016-515375)
 【国際特許分類】

F 0 4 B 39/00 (2006.01)

F 0 4 B 39/10 (2006.01)

【 F I 】

F 0 4 B 39/00 1 0 7 A

F 0 4 B 39/10 Z

F 0 4 B 39/00 1 0 4 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 29 年 8 月 28 日 (2017.8.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 7 】

図 1 ~ 図 4 に示したボール弁の代わりに、ヘッド部 1 には自転車の弁を割り当てることもできる。この場合、ニップル 1 4 には可撓性シース 1 8 が取り付けられる。可撓性シース 1 8 は、例えばシリコンによって構成することができる。上記シース 1 8 は、押し当てられるホース 1 5 によって保持される。出口 1 0 とホース 1 5 の管路 1 6 との間の接続は、シース 1 8 にある開口 1 9 を介して実現される。この開口は、管路 1 6 の上流に位置する空間 2 0 に出る。媒体がピストン 3 によって出口 1 0 に圧送される場合、シース 1 8 の前方領域 2 1 はニップル 1 4 から持ち上がり、開口 1 9 に至る媒体の経路を開く。それにより、媒体は、開口 1 9 を通って空間 2 0 内へ、また空間 2 0 から管路 1 6 内へと通過することができる。

なお、本発明は以下の特徴を以って実施することができる。

[特徴 1]

媒体をヘッド部 (1) の圧力チャンバー (2) から出口 (1 0) を通して管路 (1 6) 内へ送達する圧縮機であって、ピストン (3) は前記圧力チャンバー (2) 内に配置されており、該圧力チャンバー (2) では、前記ピストン (3) が長手方向軸 (A) に沿って動き、前記ピストン (3) は前記長手方向軸 (A) に対して揺動運動を行うことを特徴とする圧縮機。

[特徴 2]

媒体をヘッド部 (1) の圧力チャンバー (2) から出口 (1 0) を通して管路 (1 6) 内へ送達する圧縮機であって、ピストン (3) は前記圧力チャンバー (2) 内に配置されており、該圧力チャンバー (2) では、前記ピストン (3) が長手方向軸 (A) に沿って動き、前記ヘッド部 (1) にある前記出口 (1 0) は、前記長手方向軸 (A) に対して径方向に構成されていることを特徴とする圧縮機。

[特徴 3]

前記出口 (1 0) の下流には弁が接続していることを特徴とする特徴 2 に記載の圧縮機

。

[特徴 4]

前記弁は逆止弁の形態であることを特徴とする特徴 3 に記載の圧縮機。

[特徴 5]

前記弁は自転車の弁の形態であることを特徴とする特徴 3 に記載の圧縮機。

[特徴 6]

前記管路 (1 6) は、シール剤の容器および / またはタイヤの弁に接続することができることを特徴とする特徴 1 ~ 5 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

[特徴 7]

前記ピストン (3) は偏心輪 (5) に接続することを特徴とする特徴 1 ~ 6 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

[特徴 8]

ピストン (3) と偏心輪 (5) との間の接続は、ピストンロッド (4) によって実現されることを特徴とする特徴 7 に記載の圧縮機。

[特徴 9]

前記偏心輪 (5) の中心点 (M) は、前記圧力チャンバー (2) の前記長手方向軸 (A) 上にあることを特徴とする特徴 7 または 8 に記載の圧縮機。

[特徴 1 0]

前記偏心輪 (5) はディスク状の形態であることを特徴とする特徴 7 ~ 9 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

[特徴 1 1]

前記ピストン (3) は前記ピストンロッド (4) に斜めに配置されていることを特徴とする特徴 8 ~ 1 0 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

[特徴 1 2]

前記圧力チャンバー (2) において、傾斜した屋根 (1 1) が前記出口 (1 0) に向かって延びていることを特徴とする特徴 1 ~ 1 1 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

[特徴 1 3]

前記ピストン (3) の前記周縁部には可撓性環状シール (8) が配置されていることを特徴とする特徴 1 ~ 1 2 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

[特徴 1 4]

前記圧力チャンバー (2) の内壁 (9) は可撓性形態であることを特徴とする特徴 1 ~ 1 3 の何れか 1 項に記載の圧縮機。

【 手続補正 2 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【 補正対象項目名 】 全文

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 特許請求の範囲 】

【 請求項 1 】

媒体をヘッド部 (1) の圧力チャンバー (2) から出口 (1 0) を通して管路 (1 6) 内へ送達する圧縮機であって、ピストン (3) は前記圧力チャンバー (2) 内に配置されており、該圧力チャンバー (2) では、前記ピストン (3) が長手方向軸 (A) に沿って動き、前記ピストン (3) は前記長手方向軸 (A) に対して揺動運動を行うことを特徴とする圧縮機。

【 請求項 2 】

媒体をヘッド部 (1) の圧力チャンバー (2) から出口 (1 0) を通して管路 (1 6) 内へ送達する圧縮機であって、ピストン (3) は前記圧力チャンバー (2) 内に配置されており、該圧力チャンバー (2) では、前記ピストン (3) が長手方向軸 (A) に沿って動き、前記ヘッド部 (1) にある前記出口 (1 0) は、前記長手方向軸 (A) に対して径 P 方向に構成されていることを特徴とする圧縮機。